

自己評価報告書(最終報告)

報告者

教職実践力高度化コース/
小坂 浩嗣

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

教員のキャリアに応じた力量形成をねらいとする新カリキュラムのもとで、「学び続ける教員」の養成をめざし、教職実践力としての3つの力(自己教育力、教育実践力、教職協働力)を高める授業実践をめざす。

①授業内容については、生徒指導・教育相談に関する高度な専門的知識と技能を習得させることにとどめず、それらを実践に活用できる実践的内容に重点を置く。

②授業方法については、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、連携・協働できる力の育成をめざし、グループワーク型やPBL型の授業方法を導入して取り組む。

③3つの力(自己教育力、教育実践力、教職協働力)に基づいて設定する到達目標についての形成的評価と共同学習による成果発表や成果のまとめについての評価による過程と結果を総合した評価とする。

2. 点検・評価

①授業内容については、前期の1科目にケーススタディを取り入れ、後期の専門科目2科目には教育実践の省察と展望を授業内容に取り入れて実施した。

②授業方法については、後期の専門科目の2科目において、SGD型やPBL型の授業方法を導入して取り組んだ。

③3つの力(自己教育力、教育実践力、教職協働力)に基づいて設定する到達目標についての形成的評価と共同学習による成果発表や成果のまとめについての評価による過程と結果を総合して評価した。

以上の取組に対して、受講生による授業評価では3科目ともに平均4.5ポイント以上の評価を得たことから、教員の力量形成に一定の成果があった。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①「チーム総合演習Ⅰ」の授業実践に取り組み、その検証と改善を進める。
- ②教職大学院学生の学校課題フィールドワークに関わって、フィールドでの実地指導を積極的に進めていく。
- ②学生からの学習や生活等の相談が受けやすいように、オフィスアワーの明示と研究室の敷居を下げる雰囲気作りに努める。
- ③1年次生と2年次生との学生間の交流を図るため、学生主体の研究会や行事の立案・計画・運営を推進する。

2. 点検・評価

- ①「チーム総合演習Ⅰ」の授業実践に取り組み、カリキュラム開発委員会において、受講生による授業評価と面談聴取の結果をもとに授業の検証と改善を進めた。
- ②教職大学院学生の学校課題フィールドワークに関わって、前・後期ごとにフィールド先での実地指導を一人当たり平均月に2回実施した。
- ③学生からの学習や生活等の相談が受けやすいように、オフィスアワーを明示した。また、研究室の環境整備に取り組んだ。その結果、院生の研究室訪問は月平均25名(延べ数)であった。
- ④1年次生と2年次生との学生間の交流を図るため、後期の10月に同窓会を通して教育実践交流会を実施した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ①科研「子育て困難な保護者への支援ネットワーク構築に向けた実践的条件に関する研究」に関わり、保護者やその支援者へのアンケート調査およびインタビュー調査を実施する。「鈴鹿市の教育委員会及び学校と鳴門教育大学が協働的な関係を構築する」研究に係わって、研究分担者として支援法の開発と支援に努める。
- ②学校現場における生徒指導・教育相談に関わる実践的知見の体系化について、実践事例等の資料を追加収集する。
- ③生徒指導・教育相談に関わる実践事例をもとにした事例検討・事例研究法の開発に関わって、学校現場や地域での事例検討会を計画・実践し検証する。

2. 点検・評価

- ①科研「子育て困難な保護者への支援ネットワーク構築に向けた実践的条件に関する研究」に関わり、児童相談所職員へのアンケート調査を実施し、そのまとめを学会発表した。
- ②学校現場における生徒指導・教育相談に関わる実践的知見の体系化に向けて、8月に公開講座を実施して実践事例の資料を収集した。後期の専門科目で発表された実践事例を収集した。しかし、事例集の印刷までに至ることができなかった。
- ③生徒指導・教育相談に関わる実践事例をもとにした事例検討・事例研究法の開発に関わって、8月に公開講座を実施し、受講者からの意見聴取をした。その分析した結果をまとめるまでには至らなかった。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①教職大学院副専攻長として、新組織の円滑な運営に努める。
- ②大学院教務委員として、円滑な教務運営に努める。
- ③精神保健相談員として、教職員や学生のメンタルヘルスに努める。
- ④心理・教育相談室の相談員として、相談室の運営に努める。

2. 点検・評価

- ①教職大学院副専攻長として、特に新カリキュラムの運用に関わりカリキュラム開発委員会をチェック機関として機能させて推進した。
- ②大学院教務委員として、毎月の定例会議に皆出席して、委員会運営に務めた。
- ③精神保健相談員として、今年度内に受談したケースはなかった。
- ④心理・教育相談室の相談員として、10月までは個人的事情により休止した。11月から面接を再開し、3ケースについて述べ13回の面接を実施した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①徳島県スクールカウンセラーのスーパーヴァイザーとして、スクールカウンセラーを支援することを通して地域貢献に努める。
- ②公開講座の開催や支援講師アドバイザーを通して、大学と地域や学校現場との連携関係の構築に努める。
- ③徳島市元気アップ事業に共同参加し、小中学校のアドバイザーとして学校支援にめる。

2. 点検・評価

- ①徳島県スクールカウンセラーのスーパーヴァイザーとして、今年度間に1名のスクールカウンセラーを5回スーパーヴァイジョンした。
- ②公開講座を8月に開催した。また支援講師・アドバイザーとして2回実施した。
- ③徳島市元気アップ事業に共同参加したが、今年度間に依頼件数はなかった。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

平成25年度文科省委託事業「免許更新制高度化のための調査研究事業」において、ワーキングチームの主査を務め、調査研究を推進して成果報告書をまとめた。